

## 【著書・論文リスト】

## I. 著書(単行本)

## 【単著】

- ① 『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』同文館, 1994年(博士論文)。
- ② 『独ソ戦とホロコースト』日本経済評論社, 2001年(2000年度・科研費出版助成・全国図書館協議会選定図書) …1月29日に出版社HPで見たら、「品切れ」と。
- ③ 『ホロコーストの力学－独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法－』青木書店, 2003年。

## 【編著】

永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史-背景・論理・展望-』日本経済評論社, 2004年(1999-2001年度科研費(A) 国際学術調査「ヨーロッパ統合の社会史の比較研究」の成果報告: 2003年度・科研費助成出版)。1-16, 65-102ページ, およびケルブレ担当の第1章の翻訳。共著者は, 編者二人のほか, ケルブレ(ベルリン・フンボルト大学教授), 小野塚知二(東京大学教授), バンジャマン・コリア(パリ第13大学教授), アルベルト・メルレル(イタリア, サッサリ大学教授), 雨宮昭彦(千葉大学教授、現首都大学教授), 新原道信(横浜市立大学助教授、現中央大学文学部教授)。

## 【共著①】

井上茂子・木畑和子・芝健介・永岑三千輝・矢野久『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文館, 1989年。担当は, 序章 ドイツ第三帝国史研究の現在: 政治と経済, 国家と経済, 19-31ページ。第3章 第三帝国のフランス占領とドイツ経済界, 151-198ページ。

## 【共著②(担当章の執筆)】

- ①遠藤輝明編『国家と経済－フランス・ディリジズムの研究－』東京大学出版会, 1982年(1981年度・科研費出版助成)。(共著者: 権上康男, 廣田明, 廣田功, 大森弘喜, 原輝史, 秋元英一)  
担当章「第三帝国における国家と経済－ヒトラーの思想構造にそくして－」, 385-437ページ。
- ②立正大学西洋史研究室『政治と思想－村瀬興雄先生古稀記念西洋史研究論叢』1983年  
担当章「第三帝国における国家と経済－化学工業独占体イ・ゲ・ファルベン社とオーストリア併合」, 85-119ページ。
- ③廣田功・奥田央・大沢真理編『転換期における資本・労働・国家-両大戦間の比較的研究-』東京大学出版会, 1988年(1987年度科研費出版助成)。  
担当章「第三帝国チェコスロヴァキア共和国解体とイ・ゲ・ファルベン」, 123-151ページ。
- ④遠藤輝明編『地域と国家－フランス・レジオナリズムの研究－』日本経済評論社, 1992年(1991年度, 科研費出版助成)。  
担当章「地域・民族・国家-両大戦間のズデーデン問題-」, 273-319ページ。
- ⑤社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 1992年。  
廣田功との共著: ヨーロッパの戦後改革－フランスとドイツ-, そのうちドイツを分担。328-334ページ。
- ⑥西川正雄編『自国史を越えた歴史教育』三省堂, 1992年。  
担当章「ドイツ＝ポーランドの対話」(二), 192-207ページ。
- ⑦権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成－自由と組織化』東京大学出版会, 1996年(1995年度, 科研費出版助成)。  
担当章「ナチ体制下の戦後構想とドイツ資本主義の組織化」, 313-342ページ。

- ⑧廣田功・森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済－復興から統合へ－』日本経済評論社、1998年（1997年度、科研費出版助成）。  
担当章「ドイツ戦後再建の人間的社会的基礎」、55-95 ページ。
- ⑨Wolfgang Klenner/Hisashi Watanabe(Hrsg.), *Globalization and Regional Dynamics. East Asia and The European Union from the Japanese and the German Perspective*, Heidelberg 2002.  
担当：The Strategies of the Japanese Government and Trade Associations, pp. 43-49.
- ⑩横井勝彦・小野塚知二編『軍縮と武器移転の総合的歴史研究』第1巻、日本経済評論社、2011年3月刊（予定）。  
担当章：第二部・第8章 ホロコーストの力学と原爆開発

**【翻訳書（共訳・監訳・単独訳）】**

- ① ハルトムート・ケルブレ著・雨宮昭彦・金子邦子・永岑三千輝・古内博行訳『ひとつのヨーロッパへの道－その社会史的考察－』日本経済評論社1997年(第2刷, 1998)
- ② ウォルター・ラカー編・井上茂子・木畑和子・芝健介・長田浩彰・永岑三千輝・原田一美・望田幸男訳『ホロコースト大事典』柏書房, 2003年。
- ③ ハルトムート・ケルブレ著・永岑三千輝監訳・金子公彦・瀧川貴利・赤松康史訳『ヨーロッパ社会史－1945年から現在まで－』日本経済評論社, 2010年3月刊(ドイツ外務省ゲーテ・インスティテュート, 横浜学術教育財団, およびベルリン・フンボルト大学特別研究領域の出版助成。日本図書館協会・選定図書2010年4月28日付)。
- ④ ハルトムート・ケルブレ「1945年以降の独仏の社会関係」(永岑訳) 廣田功編『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』日本経済評論社, 2009年, 15-36 ページ。
- ⑤ ウルリッヒ・ヘルベルト「「ホロコースト研究の歴史と現在」(永岑訳)『横浜市立大学論叢』第53巻, 社会科学系列, 第1号, 2002年127-164 ページ。(ただしこれは単行本所収のものではない)

**【教科書（担当章・節の執筆）】**

- ① 松田智雄編『西洋経済史』青林書院新社, 1982年（項目執筆「ナチス経済」）。（共著者は、遠藤輝明, 関口尚志, 弓削達, 住谷一彦, 鈴木圭介, 楠井敏朗, 柳澤治, 廣田功, 秋元英一, 梅津順一ほか）。
- ② 歴史科学者協議会編『卒業論文を書く－テーマ設定と資料の扱い－』山川出版社, 1997年（2004年に第三刷）（担当：「ヒトラー・ナチスと第三帝国の権力」）
- ③ 経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣, 2005年（ナチス期の戦後構想から「経済の奇跡」）
- ④ 上杉忍・山根徹也編『歴史から今を知る－大学生のための世界史講義－』山川出版社, 2010年9月。  
担当章：第7章 第一次世界大戦とロシア革命,  
および, 第8章 ファシズムと第二次世界大戦。

**II. 学術論文（【査読付き】はその旨付記）(特記しない限りすべて単著)**

1. [1974] 「ナチスの農村進出－シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン州について－」  
(1), (2), 『経済学季報(立正大学, 以下同)』23-2, 27-41 ページ, 23-3・4, 1-38 ページ。
2. [1978] 「ニュルンベルク裁判文書と若干のアルヒーフ史料について」(共著者・木

- 畑和子) 現代史研究会『現代史研究』29, 43-70 ページ。【査読付き】
3. [1985]『『西ドイツ＝ポーランド教科書勧告』と西ドイツの歴史教育』(上)(中)(下) 教育科学研究会『教育』449, 94-111 ページ, 450, 116-128 ページ, 451, 112-127 ページ, 黒田多美子, 阪野智一, 佐藤健生と(中) 分担共同執筆。(上)・(下)の共同執筆者: 西川正雄, 伊集院立, 大津留厚, 清水正義, 永原陽子。【査読付き】
  4. [1985]「イ・ゲ・ファルベン社とナチ体制—私的独占体と国家との諸関係—」『経済学季報』34-2・3, 27-102 ページ。
  5. [1986]「第三帝国のポーランド占領政策とイ・ゲ・ファルベン」『経済学季報』35-1, 95-132 ページ。
  6. [1987]「第三帝国支配下のズデーテンラントにおける経済的社会的状態」『経済学季報』36-4, 123-137 ページ。
  7. [1988]「ドイツ第三帝国とイ・ゲ・ファルベン—企業史に関する最近の研究の批判的検討—」『経済学季報』37-4, 75-120 ページ。
  8. [1988]「電撃戦から総力戦への転換期における四ヶ年計画—ドイツ戦争経済の一局面—(一)(二)」『経済学季報』38-2, 51-93 ページ, 38-3, 87-151 ページ。
  9. [1989]「ズデーデン問題の発生と展開—民族問題と地域・国家、権力政治との関連で—」『経済学季報』39-3, 1-60 ページ。
  10. [1990]「民族問題と地域・国家—国際的権力政治とズデーデン問題—」『経済学季報』39-4, 143-166 ページ。
  11. [1991]「ドイツ第三帝国のオランダ・ベルギー占領とその軍事経済的利用」『経済学季報』40-4, 29-74 ページ。
  12. [1991]「ドイツ第三帝国の占領政策と民衆意識の変遷—オランダ・ベルギー・ルクセンブルクを中心に—」『経済学季報』41-1, 37-110 ページ。
  13. [1992]「ドイツ第三帝国のソ連占領政策」(一)(二)(三)『経済学季報』41-3・4, 3-106 ページ, 42-1, 33-103 ページ, 42-2, 1-104 ページ。
  14. [1992]「ドイツにおける戦後改革—その主体的要因を手がかりに—」『土地制度史学』135, 35-47 ページ。【査読付き】
  15. [1993]「ゲシュタポ報告にみる国家敵対的事件の諸相—1941 年夏—」『経済学季報』43-1, 1-106 ページ。
  16. [1993]「独ソ戦勃発初期ライヒと占領地の「平穏」と「不穏」の重層構造」『経済学季報』43-2, 1-73 ページ, 43-3, 1-73 ページ。
  17. [1993]『『冬の危機』総力戦への転換と占領地の治安秩序』(1)(2)『経済学季報』43-4, 1-51 ページ, 44-1, 1-70 ページ。
  18. [1994]「スターリングラード敗北と総督府の全体状況」『経済学季報』44-2, 1-85 ページ。
  19. [1995]『『七月二〇日』事件前夜のドイツ人民衆の動向—民衆の「麻痺」の構造の理解のために』『経済学季報』44-3・4, 1-56 ページ。
  20. [1995]「ドイツ第三帝国の戦争政策の展開とホロコースト」日本の戦争責任資料センター『戦争責任研究』8, 17-21 ページ。【査読付き】
  21. [1995]「疎開と逃避行、追放による難民化—敗戦前後の東部地域のドイツ人民衆—」『経済学季報』45-1, 1-64 ページ。
  22. [1995]「アウシュヴィッツの真実とホロコースト研究の現段階—『アウシュヴィッツ

- の嘘』の虚妄性」現代史研究会『現代史研究』41, 1-22 ページ。【査読付き】
23. [1995] 「ホロコーストとアウシュヴィッツの真実－第三帝国の戦争政策の展開とユダヤ人大量虐殺－」『経済学季報』45-2, 1-58 ページ。
  24. [1998] 「独ソ戦の展開・世界大戦化とホロコーストの力学」『横浜市立大学紀要』社会科学系列・1, 31-123 ページ。
  25. [1998] 「ホロコーストのダイナミズム－「絶滅政策」に関する史料批判と史料発掘の意義」日本ドイツ学会『ドイツ研究』26, 20-33 ページ。【査読付き】
  26. [1999] 「ドイツ経済再建の人的社会的基礎」横浜6大学連合学会『学術大会報告』14-24 ページ。
  27. [1999] 「ユダヤ人東方移送政策とウッチ・ゲッター問題」『横浜市立大学論叢』49, 社会科学系列・1, 51-100 ページ。
  28. [1999] 「ウッチ・ゲッター問題とヘウムノ・ガス自動車『安楽死』作戦」『横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 1, 1-32 ページ。
  29. [1999] 「ドイツ歴史学と現実政治－第三帝国戦時をめぐり最近の論争から－」『歴史評論』591, 2-14 ページ。
  30. [1999] 「ドイツ軍事大国化はなぜ実現したのか」『歴史地理教育』598, 14-19 ページ。
  31. [2000] 「ヒトラー『絶滅命令』とホロコースト」『土地制度史学』166, 14-19 ページ。【査読付き】
  32. [2000] 「独ソ戦の現場とホロコーストの展開」横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 2・3, 43-90 ページ。
  33. [2000] 「繰り返される歴史の歪曲－歴史修正主義」『別冊歴史読本』56。
  34. [2004] 「ホロコーストの論理と力学－総力戦敗退過程の弁証法－」『横浜市立大学論叢』55-3, 265-296 ページ。
  35. [2006] 「総力戦とプロテクトラートの『ユダヤ人問題』」『横浜市立大学論叢』56-3, 159-206 ページ。
  36. [2006] 「東ガリツィアにおけるホロコーストの展開」関東学院大学経済学部『経済系』227, 53-67 ページ。
  37. [2007] 「特殊自動車とは何か－移動型ガス室に関する史料紹介－」『横浜市立大学論叢』56-3, 123-142 ページ。
  38. [2007] 「アウシュヴィッツへの道－「過去の克服」の世界的到達点の見地から－」(1)『横浜市立大学論叢』58-1・2, 55-95 ページ。
  39. [2008] 「アウシュヴィッツへの道－「過去の克服」の世界的到達点の見地から－」(2)『横浜市立大学論叢』58-1・2・3, 223-257 ページ。
  40. [2008] 「独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト」『ロシア史研究』82, 17-25 ページ。【査読付き】
  41. [2009] 「アウシュヴィッツへの道－「過去の克服」の世界的到達点の見地から－」(3)『横浜市立大学論叢』59, 人文科学系列, 1.2, 201-218 ページ。
  42. [2009] 「ナチス・ドイツと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 1, 49-75 ページ。
  43. [2010] „Neoliberale Strömungen in Japan und die Reformen der Universitäten. Das Beispiel der Yokohama City Universität“, 『横浜市立大学論叢』59-1・2・3, 57-82 ページ。
  44. [2010] 「世界戦争の時代と『社会主義』の実験－10月革命から一国社会主義体制の成立まで－」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 3, 47-74 ページ。
  45. [2010] 「ハイゼンベルクと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 社会科学系列, 2・3, 133-148 ページ。
  46. [2010] 「ハイゼンベルク・ハルナックハウス演説の歴史的意味－ホロコーストの力学との関連で－」『横浜市立大学論叢』61-3, 99-125 ページ。